

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では目的を意識して、または目的に応じて文章を読むことに関する平均正答率が低い。算数では式や言葉を用いて記述することに関する平均正答率が低い。
 ○「児童生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、国語の学習の進め方で「文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している」項目に当てはまると答えた児童が半数以下となっている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○文章(活字)を「じっくりと読む」「理解しながら読む」という経験が全体的に不足している。また、語彙の理解や習得に関しても個人差が大きい。
 ○児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で、対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○板橋区授業スタンダードに基づいた「分かる」「出来る」「定着する」「楽しい」授業の展開
 児童にとって楽しくよく分かる授業を行うことで、基礎的・基本的な学力が身に付き、学習意欲も高まり、課題解決能力も高まる。
 ○読み解く力の育成
 MIMやRSTの結果を活用し、6つの基礎的読解能力に着目した指導方法を工夫・改善する。
 ○タブレットを用いた学習方法の習得
 見方・考え方・調べ方・ノート指導等タブレットを文房具のように使い学習する力を育てる。また、ICTを効果的に活用し、知的好奇心を高める働きかけを行う。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	話し合い活動の充実	体験的な授業の充実
○各教科の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを発達段階に応じて適宜指導し、確実な定着を図る。	○校内研究を「自分の考えをもち伝え合うことができる児童の育成～話し合い活動を通じて～」とし、小グループによる話し合いや全体での意見交流の時間を設定し、根拠をもとに対話や話し合いを重ねることで、多様なものの見方・考え方を育む。	○外部や地域と連携し、本物との出会いを大切にしながら体験的な授業の充実を図る。豊かな体験は豊かな心を育み、児童に学ぶ意欲や追求する力を育てると考える。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学校教育には、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、その資質・能力を育成することが求められている。そこで、本学びのエリアのテーマを「コミュニティを探究する～主体的に他者や社会に関わる資質・能力の育成～」と設定した。	○総合的な学習の時間を核として、教科横断的な視点で小中のつながりを意識した単元配列表を作成し、9年間で一貫された指導体系を組んでいく。また、環境教育の充実を図り、持続可能な社会のつくり手の育成を目指し、各教育活動の内容を有機的に関連付け、SDGsやESDの視点を取り入れながら、児童が主体的に生き生きと活動する授業を進めていく。	○情報活用能力の育成のために、発達段階に応じて児童に機器の操作を身に付けさせる。各教科や領域の特性を考え、キーボードなどによる文字の入力や電子ファイルの保存・整理の取組、探究的な活動におけるインターネット上の情報の閲覧や収集をする取組、自身の考えを表出するための効果的な表現の取組、児童が相互に考えを交流させる取組等、効果的な学習を計画的に全学年で行う。